

1964 年 8 月、筆者らは広島大学理学部鈴木兵二博士と共に、秋田県増田町の依頼で栗駒県立公園の一部である雄勝郡 稲庭川連町木地山部落の北東約 1 km、コケ沼と部落民が呼んでいる小さな湿原の調査を行なった（国土地理院発行の 5 万分の 1 地形図では、荒地の記号で示されている）。この湿原は長径約 450 m、短径約 200 m、広半月形を呈している。群落的にみるとイボミズゴケとホロムイソウを主体とする特殊な湿原で、全体が浮島状をなしている。上述の調査において、筆者らはホシクサ属にニッポンイヌノヒゲとイヌノヒゲを検出したが、なお未知の一種を産することを知った。ここにコケヌマイヌノヒゲと命名した新植物はイヌノヒゲに近い植物であるが次表のように区別される。

種名 形質	イヌノヒゲ	コケヌマイヌノヒゲ
総包片	鋭頭～やや鈍頭	漸鋭頭
花苞	一般に鋭頭にして上縁円柱状毛を生ず	一般に鈍頭にして上縁円柱状毛を疎生
萼	大形（♂：2-2.5 mm，♀：3 mm） 明らかに 3 裂	小形（♂：1.5 mm，♀：2 mm） ゆるく波状に 3 浅裂
雌花弁	頂部明らかに有毛	無毛
円柱状毛	長く太し、白色、通例 2 細胞性、 長さ 80-100 μ ，幅 30-40 μ	短く細し、白～汚白色、通例単細胞、 稀に 2 細胞、長さ 50-70 μ ， 幅 10 μ
花床	通常無毛	長白絹毛を密生

本新種の種名は、本邦ホシクサ科分類の泰斗であり、かつコケ沼に近き湯沢市とは最も深い縁をもつ佐竹義輔博士を記念するものである。

□地衣学の老大家 Dr. Maurice Bouly de Lesdain の訃 Bouly de Lesdain 博士は本年 (1965) 1 月 3 日に 96 才の高齢で仏国 Lille の氏の自宅で逝去された。同博士は明治 2 年 (1869) に生れ、地衣種名学の専門で名声を挙げ、明治の末期には堂々たる大家の列に加っていた。博士の鑑定は確実の点で知られ、学者の信頼を得た。第 2 大戦でダンケルクの大爆撃の犠牲となって住宅とハーバリウムを失ったが、戦後 Lille に移って、標本の蒐集と鑑定を始めた元気は、世界の学者を驚かした。ここに吾人は同博士の遠逝に対して深く哀悼の意を表するものである。
(朝比奈泰彦)